

④「子どもへの薬の飲ませ方」

東京女子医科大学小児看護学

日沼千尋 先生

飲んだ薬は血液中に吸収されて組織に運ばれ、最終的に肝臓で分解され、腎臓で排泄される。特に2歳未満の子どもは薬の分解・排泄能力が未熟であるため、薬の量は子どもの体重や年齢に合わせ、個々の患者毎に計算して決められる。従って、子どもの薬は代用がきかず、兄弟の薬を飲ませたり、飲み忘れたのでまとめて飲ませるなどといったことをしてはいけない。

子どもは大人と違って自分の体の具合の悪さと薬を飲む理由を結び付けて考えることができないので、大人のように苦くても元気になるためには薬を飲まなければとは思わず、服薬を拒否することも多い。しかし、個人差もあるが、経験上は3歳以上なら、きちんと目を見て、「こういう理由であなたにこの薬を飲んでもらいたい」とことと「薬を飲むとこれらの症状が良くなって楽になるので頑張ってください」ときちんと説明すると、子どもなりに理解が可能である。なお、本日は風邪を引いたとか、少し熱を出したとかいう時に使う薬（スライド1）について解説する。

通常、薬には「食後」と書いてあるが、子どもに確実に飲ませるためには空腹時、つまりご飯の前（赤ちゃんはほ乳前）に飲ませるのがよい。抗生剤などの粉薬（スライド2）は基本的に少量の水に溶かしてスポイトかスプーンで飲ませる。少量の水というのは2～3mlで、溶かした粉薬と水を一緒にすればティースプーン一杯（5ml）程度になる。授乳中の赤ちゃんならスポイトで1滴か2滴の水を粉薬の上に落とし、スプーンか指（手はきれいに洗ってから）で練って団子のようにして、赤ちゃんの上あごか頬の内側に塗り付けた後に母乳かミルクを飲ませる。また、赤ちゃんの場合は溶かしたものをほ乳瓶の乳首の中に入れて、そのままビンを付けずに口に持っていくと吸ってくれることもある（スライド3）。ただし、乳首であげる方法はミルク嫌いになる危険性も秘めている。幼児（1～2歳）は「おちょこ」からダイレクトに飲むのを結構好む。薬を飲ませる時のポイントは何よりも少なめにということである。

子どもが薬を飲むとき

| | | |
|-------|--------------|--------------|
| ■ 発熱 | (風邪など) | 解熱剤(坐薬) |
| ■ 鼻水 | (風邪など) | 抗ヒスタミン剤(内服薬) |
| ■ 咳 | (風邪・喘息など) | 去痰剤(内服薬) |
| | | 気管拡張剤(テープ) |
| | | 抗アレルギー剤(吸入薬) |
| ■ 感染症 | (中耳炎など) | 抗生剤(内服薬) |
| ■ 下痢 | (ウイルス性胃腸炎など) | 止痢剤(内服薬) |
| ■ 嘔吐 | (ウイルス性胃腸炎など) | 吐き気止め(坐薬) |

(スライド1)

内服薬(散剤)の飲ませ方



(スライド2)

乳首の活用



(スライド3)

アイスクリーム、ヨーグルト、ゼリー、ジャムなど（味が濃く、甘く、冷たいもの）でくるんで一口で飲ませるという方法もある。いろいろな味のゼリー状のオブラートも市販されているが、チョコレート味のゼリーの上に薬を乗せ、その上にもう一回ゼリーを乗せてチョコレートゼリーサンドにして飲ませる方法もある（スライド4）。シロップはそのままスポイトやスプーンで飲ませる（スライド5）。スポイトで薬を入れる時は少量を口の横から入れるようにする。泣いている時に口の真ん中に入れると吸い込んでむせてしまうので注意する。そして、頑張っただけで飲んだら褒めちぎり、「服薬は本当に大切なことである」ことを気付かせて自己効力感を高めてあげていただきたい。一方、下痢止めの薬は溶けにくく、まずいので、先述した練る方法で最小量を飲ませた後、何か甘い物で仕上げをするとよい。

ミルクや離乳食が嫌いになると困るので、授乳中の赤ちゃんは薬をミルクに溶かさず、離乳食中の子どもは離乳食に混ぜないようにする。また、柑橘系のオレンジジュースに溶かすと逆に苦味が増してしまうことがある。混ぜてもよいか分からない場合は薬剤師や処方された病院に問い合わせる。せっかく飲んだのに薬を吐いてしまうということもある。飲んだ直後なら様子を見て、もう一度飲めるようなら再びトライする。だが、1時間以上たっている時、飲んだ量が分からない時、吐いた量が分からない時はそのまま様子をみた方がよい。

なかなか飲まない、親も苦しまぎれに子どもと取り引きを始める（これを飲んだら何々を買ってあげるとか）。しかし、飲んでもらいたい一心での「取り引き」は子どもの要求をなおエスカレートさせるだけで、「薬は飲まなくてはいけないものだ」という前提の下、毅然とした態度で淡々と飲ませることが大事である。一方、親子の間でお互いに煮詰まってしまう、薬を飲んでくれない場合は飲ませる人を代える、外来に連れてきた時に看護師と一緒に飲ませてもらう、薬の形態を変える（錠剤から粉薬に）と飲める時もある。

座薬は先端に水を少しだけ付け、滑りやすくして肛門内に挿入後、お尻を30秒位押さえて座薬が出てこないことを確認してからおむつをする。便と一緒に出た場合も半分以上解けていたら追加しない方がよい。1/2使用という指示なら、カッターでスライド6のようにカットすると、どちらもとがっていて無駄なく使える。残りはまたパッケージにそっと包んで冷蔵庫に保管し、次の日に使わなければ捨てる。気管支拡張剤のテープは一日一回場所を変えて汗をふき取ってから張る。赤ちゃんの手の届くところに張るとはがしてなめたりするので、手の届かない背中などに張るとよい。

市販の薬用ゼリーサンド



(スライド4)

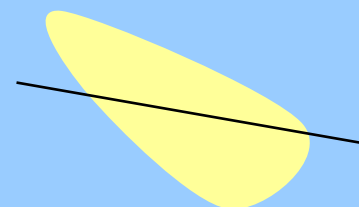
シロップ



(スライド5)

座薬のカットの仕方 1/2と指示されたら

- カッターナイフでカット



(スライド6)